

(2) 那須地域におけるまちづくりについて

想定課題

那須地域のまちづくりはどうあるべきか。

対応方向

20世紀は、経済的な効率性を重視し、大量生産・大量消費が支える「都市」中心の文化・文明を築き、物質的な豊かさを実現しました。

しかしながら、その一方で、

地球規模の環境問題

画一的・集権的な社会構造による地域固有の文化の喪失、アイデンティティの希薄化

国際社会における地域・民族・宗教紛争の多発、社会格差の増大

など、様々な問題が生じています。

こうしたことを踏まえ、これからの都市づくりは、「環境」に配慮し、「文化」を尊重し、「平和」を希求する21世紀にふさわしい都市づくりを進めるべきであると考えます。

したがって、那須地域におけるまちづくりに当たっては、国会等の移転に伴う新都市づくりを21世紀にふさわしい都市文明のモデル都市を創る絶好の機会として捉え、「環境・文化・平和」をキーワードにまちづくりを行うべきであると考えます。

1 那須新都市の基本コンセプト

「環境」 - 豊かな生活と環境保全の両立 -

- ・ 環境効率性の追求
- ・ 低負荷型・資源循環型の都市システムの構築
- ・ 自然的エネルギーの活用

「文化」 - 多様な文化の尊重 -

- ・ 日本独自の自然を生かした都市づくり技法の導入
- ・ 四季折々の風物詩や花鳥風月を取り入れた空間形成

「平和」 - 環境共生の技術移転による国際貢献 -

- ・ 環境に関する研究機関、国際機関の立地
- ・ NGO等の人材育成機関の立地

2 那須新都市の構造イメージ

那須地域は、西側に那須連山、東側に八溝山地、中央部に平坦な那須野ヶ原、という地形構造になっています。

こうした特性を踏まえ、那須地域の豊かな自然を守りながら、環境との共生を積極的に図っていくため、栃木県では、那須新都市のイメージについて、「那須から拓く新しい日本 - 那須新首都への提案 - 」において、次のような提案をしています。

那須新都市全域を「那須環境共生系（エコフィールド）」と位置づけ、その中で、人と自然の関わり方から「自然環境系（ネイチャーフィールド）」、「農牧・平地林環境系（アグリフィールド）」

ド)、「生活環境系(ライフフィールド)」の3つに分けて、それぞれのフィールドにふさわしい土地利用や社会経済活動など(フィールドワーク)を展開していく。

自然環境系(ネイチャーフィールド)

自然環境保全や活力ある林業・観光サービス産業や山村生活が展開されるとともに、リゾートやグリーンツーリズムなど市民のニーズに対応

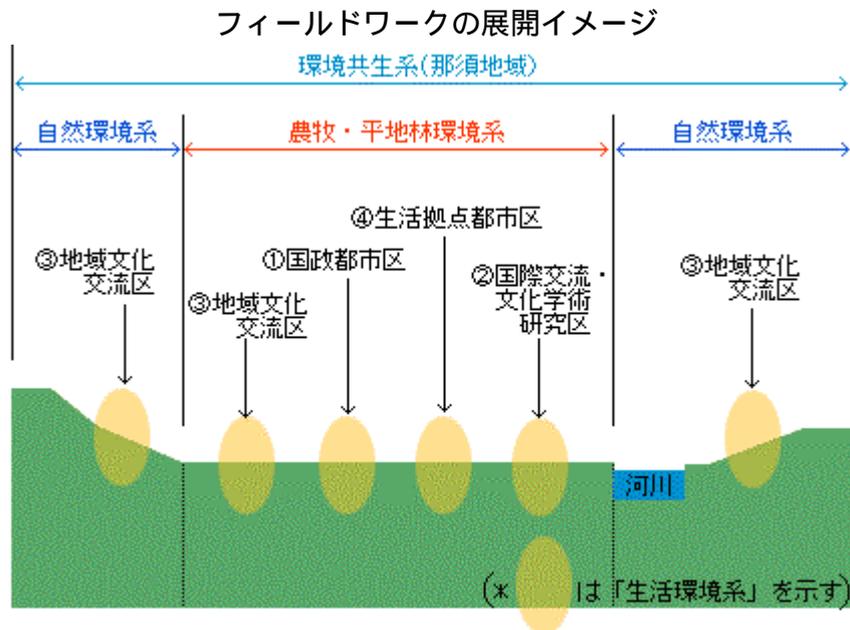
農牧・平地林環境系(アグリフィールド)

魅力ある地域の農業生産やゆとりある農山村生活が展開されるとともに、アグリツーリズム等の市民の新たなニーズや総合的な環境保全機能に対応

生活環境系(ライフフィールド)

人の都市活動・生活の主舞台として環境共生型の都市づくりを展開、国会等と地域との関わり方から4系統の(整備)区を設定、地域特性に応じた適正配置

国政都市区 国際交流・文化学研究区 地域文化交流区
生活拠点都市区(既存市街地のリノベーションを含む)



3 那須新都市の構成要素イメージ(生活環境系の構成機能)

(1) 国政都市(区)

立法機能、行政機能、司法機能

国政支援機能、市民参画機能、迎賓機能、新都市運営・サポート機能

(2) 国際交流・文化学研究区

外交機能、国際交流機能、地球市民参画機能、文化学研究機能

(3) 地域文化交流区

農村文化交流機能、歴史文化交流機能、高原リゾート機能、温泉保養機能

(4) 生活拠点都市(区)

高次な都市サービス機能、ターミナル機能、居住機能